

所長の模型部屋（第5回）

みなさん、こんにちは。

最近の自衛隊車両のキット化のペースが凄いですね・・・この記事が載る頃には何がキット化されているのでしょうか・・・

陸上自衛隊だけでなく、海上自衛隊の艦船もかなりのペースでキットになっていますよね。艦船モデラーって大変だろうなと思っちゃいます。私もたまにしか作りませんが、1/350ともなると置き場所に困っちゃいますよね・・・

さて、今回紹介します車両は・・・

89式装甲戦闘車です。



それまでのAPC（装甲人員輸送車）から、FV（装甲戦闘車）というあたらしいカテゴリーの戦闘車両です。高い走破能力を持つ90式戦車と行動出来るようになった普通科部隊の装甲車で、35mm機関砲と重MATが主要装備火器です。

第71戦車連隊にて74式戦車から90式戦車に換装されていた頃、交差教育として89式装甲戦闘車が導入されていた第11普通科連隊とそれぞれの車両の特性を相互に教育しました。この際、操縦してみたのですが、もの凄い速度が出たのに驚いています。ただ、懸架装置がトーションバー方式ですので跳ね易かったのを覚えています。



ご承知の通り、本キットはピットロード社からレジンキャストキットとして販売され、それをインジェクションキットとしてキット化されたもので、15000円近いレジンキャストキットを購入・製作していた私は、悲しくなりつつも本キットを購入しました。せめてもの意地で、ライオンロア社のエッチングパーツを使用しましたが、排気グリルのパーツの多さにさっさと諦め、最低限の使用にとどめました。

車体後部の合いがあまり良くないので、以前のレジンキャストキットと比較しながら作成しました。少し設計図どおりには行かないと思います。履帯も以前の組み立て方式からベルト式になり、これだけでもグツと作りやすくなりました。どうせ側面防弾版が付くので履帯の弛みなんか見えないし・・・





マーキングは第11普通科連隊第1中隊です。幹部候補生の頃、同中隊と協同で攻撃した覚えがあります。

塗装はサフェイサーを吹いた後に、アクリルタミヤといういつもの方程式です。ウェザリングスティックを主要な箇所に塗り、水で伸ばして泥汚れと埃を表現しました。

北海道大演習場の泥は乾くととても粉っぽくなり、訓練すると直ぐにライトアース色のペールに包まれてしまいます。

排気口の煤は、パステルコンテを粉にして塗布しました。後は、錆をパステルでちょこっと塗った程度ですかね・・・

さて、次回は・・・

軽装甲機動車です。



ではまた、自己満足の世界でお会いしましょう